



「荒井郁之助」

原田 朗 著

吉川弘文館, 1994年7月, 四六版,
265頁, 1906円

荒井郁之助という名前を聞いて何人の人が気象関係者であると思いつくことが出来るであろうか？ ましてやその人物の詳しい事績を知っている人が何人いるであろうか？ 評者も僅かに、初代中央気象台長としての名前と、日本気象学会75年史（1957年、日本気象学会）や気象百年史（1975年、気象庁）に掲載されている写真を知っているのみである。

今回この知られざる初代中央気象台長の伝記が、気象学者の手によって書かれ、日本の歴史上の人物の伝記を200冊以上刊行している人物叢書（日本歴史学会編集）の1冊として刊行された。この叢書に登場する人物はおもに政治家・軍人・思想家などであり、わずかにシーボルト・平賀源内・杉田玄白など幕末の自然科学者が含まれているのみである。このことは日本歴史学会の歴史に対する認識を反映しているものと考えられる。今回のこの叢書の1冊として気象学に関係する人物の伝記が刊行されたことは、このような日本歴史学会の科学史に対する認識の変化の兆候と考えると非常に意義深いものと考えられる。

気象学に関係する人物の伝記といえばやはり岡田武松や藤原咲平の名がまず思い出される。これらの人々の伝記としては「岡田武松伝」（須田瀧雄著、1968年岩波書店）「渦・雲・人-藤原咲平伝-」（根本順吉著、1985年筑摩書房）などがある。しかしこれらの人々は歴史上の人物というには余りに新しく、またその伝記も当人を非常によく知っている著者によって書かれている。今回の荒井郁之助についてはむしろ、僅かに残されている史料を集め、それらを比較検討することによってその人物像を作り上げてゆくという、通常の歴史上の人物の伝記と同様の方法が用いられている。著者も史料集めの苦労と楽しみを、本書のあとがきや別の場所（気象庁図書月報39巻3号、1993年）で述べている。

それはさておき、荒井郁之助の生涯と事績について評者はほとんど知らなかったが、今回この伝記を読み進むにつれて、近代日本の自然科学、特に地球物理学

の多くの分野の基礎の確立に非常に関係していることが分かった。本書の記述に沿ってその概略を以下に記す。

荒井郁之助は天保七年（1836）に旗本の家に生まれ、幕末の激動期に海軍のテクノクラートとして幕府に仕え（軍艦操練所頭取、海軍奉行など）、江戸湾の測量などを行う。さらに戊辰戦争に際し軍艦頭として開陽・回天などの幕府の艦隊を率いて、蝦夷地に向かう。この間何度も艦隊は嵐に遭遇し、甚大な被害を被り、この時の経験がその後の気象事業との関わりで生かされることとなる。この後宮古湾において新政府海軍と戦い、あるいは榎本武揚とともに箱館五稜郭に奮戦するが、敗れて獄に下る（この獄中において「英和对訳辞書」を編纂したというのが従来の通説であったが、本書ではこの通説を否定する例証を試みている）。赦されてのち開拓使に出仕し、仮学校（札幌農学校の前身）の校長を経て北海道の三角測量を行う。さらに開拓使を辞して後は今日の科学雑誌の嚆矢をなす「中外工業新報」を発行する。その後再び内務省地理局へ奉職し、大三角測量の実施、1mを3尺3寸とするメートル法の導入、日本の経度基準点の決定、日本標準時の制定など、今日の地球物理学の基礎をなす多くの重要な仕事を行っている。また明治20年には本邦で最初の日食の観測にも成功している。その後は地理局において測候所の全国展開を行い、明治23年に中央気象台が創設されるとともにその初代台長に就任、翌年勇退する。したがって気象台長としての活躍の期間は短い。東京地学協会には創設時から参加し、地磁気偏角の経年変化などいくつかの重要な講演を行っている。また、気象関係の学会の始まりである東京気象学会の会長を勤め、その後現在の気象学会の母体ともなった大日本気象学会の幹事長を勤めている。さらに気象集誌に気象事業が整備されてきた歴史を「本邦測候沿革史」として発表している。地理局退官後は浦賀船渠（現在の住友重機械工業（株）浦賀工場）の創設に参加し、明治42年に永眠する。

幕末のテクノクラートとして同じような経歴を経、しかも維新後も歴史の表舞台で活躍した榎本武揚、荒井と同様に歴史の表舞台から去った小野友五郎（咸臨丸航海長）、さらには幕末の官僚としての勝海舟と小栗忠順あるいは岩瀬忠震との対比をみると、歴史の非情さを感じるのは評者だけではないであろう。

本書は、幕末の激動期に時代に翻弄されながらも自然科学の分野において確固とした仕事を残し、気象事

業の始まりを支えた幕末の1人のテクノクラートの生涯とその事績を、海外にまで広く渉猟した史料を基に、情に流されることなく淡々とした筆致で描いており、非常に爽やかな読後感を覚える。気象学の歴史に興味を持たれる方に一読をお薦めしたい好著である。

なお、荒井郁之助については、古くは日本気象学史

(荒川秀俊著、1941年)や本誌第2巻(1954年：堀内剛二)に簡単に紹介されており、さらに最近では根本順吉氏が「日本の創造力」第3巻(日本放送出版協会、1993年)にまとめられていると共に、雑誌「気象」に現在連載しておられることを付記しておく。

(気象研究所 藤谷 徳之助)



教官公募のお知らせ

高知大学理学部情報科学科

1. 公募人員 理学部情報科学科助手 2名
2. 専門分野 情報科学、情報工学分野で研究歴があり教育及び研究に意欲のある方
3. 応募資格 博士の学位を有するか、または取得見込みのある方
4. 着任時期 平成7年4月1日
5. 提出書類
 - 1) 履歴書(写真添付のこと)
 - 2) 研究業績リスト
 - 3) 主な論文の別刷り(コピー可)
 - 4) 研究業績の説明及び将来の研究計画(2000字程度)
 - 5) 推薦書(自薦の場合は意見を述べることの出来る方)
6. 応募締切 平成7年1月9日(月)必着
封筒に「応募書類在中」と朱書きし、書留郵便で送付のこと
7. 宛先及び問い合わせ先
〒780 高知市曙町2-5-1
高知大学理学部情報科学教室
楠瀬 昌彦
TEL 0888-44-0111(交換)
0888-44-8333(ダイヤルイン)